

〈総説〉

日本における学生参加型FDの活動内容と課題に関する文献検討

Activities and Challenges in Student-involved Faculty Development in Japan: A Literature Review

山崎千寿子¹ 嶋澤奈津子¹

1 東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科

Chizuko YAMAZAKI¹, Natsuko SHIMAZAWA¹

1 Division of Nursing, Faculty of Healthcare, Tokyo Healthcare University

要 旨：【目的】文献により、学生参加型FD活動に関する他大学の実践と課題を明らかにし、本学科における学生とともに取り組む教育の質向上に向けた活動への示唆を得る。
【方法】医中誌、CiNii、GoogleScholarを用いて、「学生参加」「学生参画」と「FD」「学生FD」で検索した。FD活動内容または課題が記載されている文献を対象とし、FD活動のタイプ、活動レベル別に整理した。
【結果】対象文献は45件であった（ハンドサーチ6件含む）。学生主体で活動する「学生FD」が22件、大学公認組織で活動する「学生参画型FD」18件であった。活動内容では学生と教職員が教育をテーマに自由に話し合う場の開催が最も多かった。一方で学生教職員の理解、参加者数の確保、予算など活動継続に関連する課題があった。
【結論】教職員と学生がともに取り組む教育の質向上に向けて、学生と教職員が意見交換する場の開催の重要性が示唆された。

Abstract: *Objective:* This study aims to clarify the practices and challenges of student-involved faculty development (FD) activities in other universities based on a review of existing literature. The findings will be used to enhance the quality of education through student-faculty collaboration in our department.

Methods: We searched Ichushi, CiNii, and Google Scholar using the keywords "student participation," "student engagement," "FD," and "student FD." Literature describing the content or challenges of FD activity was selected and categorized by type and activity level.

Results: A total of 45 relevant articles were identified, including 6 obtained through hand-searching. Of these, 22 described 'student FD' activities led primarily by students, while 18 focused on 'student-engaged FD' activities conducted within officially recognized university organizations. The most common activity involved creating forums where students and faculty can freely discuss educational themes. Conversely, challenges related to the sustainability of these activities included ensuring understanding of both students and faculty, securing sufficient participants, and obtaining adequate fundings.

Conclusion: Creating opportunities for faculty and students to exchange opinions was highlighted as a key step toward enhancing educational quality through collaborative efforts.

キーワード：FD、学生FD、学生参画、教育の質

Keywords：Faculty development, Student-involved FD, Student Engagement, quality of education

I. 緒言

ファカルティ・ディベロップメント（以下、FD）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称¹⁾である。大学設置基準の改定によりFDは制度化され、1999年に努力義務化、2007年に大学院課程におけるFDの義務化、2008年に学士課程におけるFDが義務化となった²⁾。教育の質向上や学修成果を高めるため、全ての大学において組織化されたFDが求められている。

2000年に文部科学省高等教育局から学生の立場に立った大学づくりが提案³⁾され、教員中心の大学から学生中心の大学への転換が求められる中、大学が学生を教育改善活動に参画させる学生参画は全学レベルでより組織的に取り組まれるようになってきている⁴⁾。2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）⁵⁾においても、今後の大学教育のあり方を示すなかで、学修者本位への教育の転換や学修成果の可視化を重視する視点が強調されている。教員が何を教えるかより学生の学びを重視しており、この流れは高等教育の質保証にも大きな影響を与えているといえる。大学基準協会が調査した「質保証における学生参画のあり方に関する調査研究報告書」⁶⁾では、学生の学習環境や学生生活環境を改善し、学生の学びを最大化し社会に送り出すためには、当事者である学生を参画させることが必要かつ有効であるとされている。また、内部質保証における学生参画の大学にとっての意義、さらには外部質保証における学生参画の意義についても述べられており、今後の認証評価に学生参画が取り上げられる可能性があることが示唆される。

今後さらなる少子化が進み、高等教育市場の競争が激化することが予測され、より多くの学生を呼び込むため教育の質を高め、その教育内容を保証することが生き残るための重要課題であると指摘されている⁷⁾。そのためには、大学教育の制度、内容、枠組みなど大学教育に求められる様々な変化に対応しながら質を保証し、魅力ある大学として学生に選ばれたい大学づくりのためには、学生の視点は欠かせないと考えられる。学生の視点を活かした教育改善を実現し、質の維持および向上に寄与する取り組みとして、学生参画は今後さらに発展が期待されるといえる。

学生の教育や大学運営への学生参加について、本学では内部質保証の一環として、授業評価アンケートや学生調査による学生の意見聴取、自己点検評価において学生自治である学友会への意見聴取を実施している。そのうえで、さらに魅力ある大学、選ば

れる大学を目指し、学生と共に教育の質を向上させ、質を保証していくことは重要な課題である。近年の学生の多様化を教育発展の重要な機会として捉え、学生が教育プロセスに主体的に参画し、教員と協働して新たな学びの創造により教育の質向上に取り組むことが必要と考える。そこで、FDへの学生参加に関する示唆を得ることを目的とし、学生参加型FD活動に関する他大学の活動内容と課題について文献資料に基づき報告する。

II. 目的

文献検討により、学生参加型FD活動に関する他大学の活動内容と課題を明らかにし、本学科における学生とともに取り組む教育の質向上に向けた活動への示唆を得る。

III. 方法

1. 本研究で対象とする活動内容と用語について

木野⁸⁾は、学生参画型FDについて「授業や教育改善に関心を持つ学生が、その改善のために主体的に取り組む活動で、大学側との連携を求めるもの」と定義しており、学生FDや学生参加型FDとも称される取り組みを含めて学生参画型FDとしている。一方、中里は⁹⁾、FDへの学生参画に関する先行研究を参照すると、学生参画型FD、学生FD、学生参加型FDという用語が使用されていることを指摘している。服部は¹⁰⁾「学生参加型FD」を用いており、「学生FDや学生参画型FDと呼ばれる場合もある」と述べており、用語の統一がなされていないことを示している。本報告では、中里の定義⁹⁾を採用し、以下のように用語を整理する。大学の公的または公認の組織に位置づけられている活動を「学生参画型FD」、学生有志による学生主体の活動を「学生FD」、その他、教職員主催の活動に学生が参加する場合を「その他」とし、これら全てを含めて「学生参加型FD」とする。また、本報告対象の活動内容は、教育の質や学修成果を高めるために学生が参画する取り組みとする。田中は¹¹⁾、大学における学生参画の目的として、①学生個人および同輩の学修成果の最大化、②大学教育の質の保証・向上、③大学運営における学生・大学・社会の利益の反映、の3点を挙げており、これは木野が示す学生参画型FDの目的と整合する。①は、相互学習を通じた学修成果の向上という観点からピア・サポートを含むとされる。②は、学生の意見を教育改善に反映させることを指し、直接的に教職員と学生

が意見交換を行う場合と、質問紙調査等による間接的な意見収集の双方を含む。間接的手法である授業評価アンケートや学生調査は、本学においてすでに実施しているため、本報告の対象には含めず、直接的な教職員と学生が意見交換する活動を対象とする。

2. 文献の選定方法

医中誌Web版、CiNii、Google Scholarを用いて、2010年以降の文献に限定し、「学生参加」または「学生参画」と「FD」または「学生FD」をキーワードとして検索した。2010年以降に限定した理由は、2009年に第1回全国学生FDサミットが開催され、それ以降に学生FDの認知も広まったと考えられるためである。抽出された文献のタイトルおよび抄録を確認後、重複文献を除外し、入手可能な文献の本文を読み、活動内容または課題が記載されている文献を選定した。さらに大学コンソーシアム京都によるFDSDフォーラム2015年度の第3分科会のテーマが「学生FDと大学マネジメント」であり、そこで報告されていた4大学の報告内容も対象とした。

3. 分析方法

対象文献について、文献の概要（発表年、大学名、FD活動目的、参加者数、参加者内訳）、FDのタイプ（学生参画型FD、学生FD、その他）、活動分類（ピア・サポート、教育改善支援、大学運営）、実施内容、課題、活動成果についてマトリックスで整理した。活動内容については、田中¹¹⁾、梅村¹²⁾、鈴木¹³⁾、を参考に、①ピア・サポート、②教育改善支援、③大学運営の活動レベル別に分類した。

IV. 結果

検索の結果118件の文献が抽出され、最終の対象文献は39件であった。ハンドサーチによる2件、大学コンソーシアム京都によるFDSDフォーラム2015年での報告4件を追加し、合計45件を対象とした¹⁴⁻⁵⁸⁾。

1. 対象文献の概要（表1）

対象文献の活動内容が紹介されていた大学は21大学であり、看護系大学は2大学であった。日本大学は2013年から学生FDサミットを毎年開催しており、2025年まで学生が記載した活動報告書が発行されていた。文献の発表年では2010年から2025年まで毎年報告があり、2015年が最も多く8件であり、ついで2018年の7件であった。2015年のうち4件は大学FDSDフォーラム第3分科会「学生FDと大学マネジメント」

での報告内容である。

FDのタイプとしては、大学からの公的組織ではないが学生有志や学生FDメンバー、学生のピア・サポートサークルなど学生主体で活動する学生FDが最も多く22件（1件は学生参画型と重複）であった。そのうち11件は日本大学のFDサミット報告である。大学に任命された公的または公認の組織として活動する学生参画型FDは18件であった。その他は6件であり、教員または教職員が開催する交流会やFD研修会で学生と意見交換するなどの活動であった。

2. 学生参加型FDの活動内容（表1および表2）

1) ピア・サポート：ミクロ

学生同士の支援によるピア・サポートは、学生参画型FDで10件、学生FDで2件であった。学生参画型では、ピア・サポートが大学内で組織化されている。学習支援を活動の柱にするピア・サポートを組織化し¹⁵⁾³⁵⁾、サポーターにスキルトレーニングを提供しているところもある²⁹⁾³⁵⁾。活動内容としては、授業補助や学習支援などに加えて、留学生支援⁴⁶⁾、新入生のオリエンテーション⁵⁷⁾、図書館の利用者支援、キャリア形成や就職支援¹⁵⁾など多様であった。

立命館大学では全学部の上級生が初年次教育の支援を行う制度（オリター・エンター）があり、就学相談、生活支援、コミュニティ形成の3つの支援領域に関わっている¹⁵⁾。また、Educational supporter（ES）は授業内外での学生への質問対応を行っている¹⁵⁾²⁴⁾。ピア・サポートの内容は、授業外活動で学生組織と大学部局が協働して行われているものが多く、例えば国際部とワールド会（留学経験者のグループ）、キャリアセンターとキャリアサポートスタッフ／リクルートサポートスタッフなど授業外の活動を支援している¹⁸⁾。さらにピア・サポート団体が学生自治会や有志の学生によって設立されたものもあり、それらの団体間の連携を促進する団体も設立されている¹⁸⁾。京都産業大学では、ラーニングcommonsにおいて大学の臨時職員として雇用される立場の学生が、図書館と協力して施設の保守点検や施設の利用促進のための企画・運営を実施している³⁰⁾。

2) 教育改善支援：メゾ

教育改善支援で最も多い活動は、学生・教員・職員で意見交換を行う活動であり、学生参画FDで9件、学生FDで21件、その他で4件であった。学生教職員の意見交換の場である「しゃべり場」は、立命館大学で2008年に導入され学生FDの基本的活動となり、全国学生FDサミットでも同様の形が継続され全国に広

表1 対象文献の概要

| 文献No | 著者/報告者 | 年 | 文献・報告書のタイトル | 活動大学 | FD活動のタイプ | 主な活動内容 |
|------|---------|------|--|---------|----------|---|
| 14 | 浦邊ら | 2010 | 学生による徳大生の正課外活動支援-真剣徳大しやべり場の企画・開催を通して、平成22年度大学教育カンファレンス in 徳島 | 徳島大学 | 学生有志が主催 | 「しやべり場」の開催 参加者：28名(学生22名、教員6名) テーマ：「楽しかった授業、楽しみな授業」 「授業を選ぶ基準」 「大学でしやべり場の企画・開催」 「ピア・サポーター制度」 「上級生による初年次教育の支援、授業内外で学生の質問対応や教材作成/学生FDスタッフのピア・サポーター活動」 「しやべり場」や学生FDサミットの開催、全国のFD活動に従事する学生との交流や企画の実施。学生自治会と大学執行部が定期的に懇談会を開催し、教学政策を協議/その他：図書館の学内の利用者支援や広報活動、キャリア形成や就職活動の支援 |
| 15 | 沖ら | 2011 | 高等教育における学生参画の制度：立命館大学の事例を中心に | 立命館大学 | 学生参画型FD | 「しやべり場」の開催(参加者：学生教職員104名) テーマ：京産大で何がしたいか、学生時代に大切なこと、京産大の良いところ、悪いところ、理想の大学、京産大についてどう思うかなど |
| 16 | 林ら | 2012 | 共創風土を醸成する「寮 presents 『京産共創』プロジェクト」：学生を中心とした Organization Development の取組 | 京都産業大学 | 学生FD | テーマ：マイケルケルケルの教授法を題材として京都産業大学として京産大にどう貢献できるか？ |
| 17 | 林ら | 2013 | 第18回FDフォーラムマイケル・サンデル型授業で学生・教員・職員はどよう変わるか、高等教育フォーラム | 京都産業大学 | 学生FD | テーマ：マイケルケルケルの教授法を題材として京都産業大学として京産大にどう貢献できるか？ |
| 18 | 池ヶ谷ら | 2013 | 創価大学における学生参画の現状と展望 | 創価大学 | 学生参画型FD | 全学協議会への参加；学長、理事、教員代表、職員代表、院生代表、学生代表(各学部自治会執行委員、学友会、寮生代表、留学生)で構成/学生と教員の意見交換の場を企画・開催/ピアサポーター・学習サポーター；SATはトレーニングプログラムを受講、授業モニタを行う学生ボランティア |
| 19 | 吉田 | 2013 | 学生が参画する教育改善・学生支援活動の効果検証に関する一考察 徳島大学学生チーム「緊急 create」の事例から | 徳島大学 | 学生FD | 有志学生による自主組織「緊急 create」の活動(2名の教職員がサポーター) 学生、教職員対象に、大学生生活における正課、正課外での学びの意義、活動の意義を考える企画(意見交換、ワークショップ、プレゼンテーションなど)/学生支援におけるセミナー等での話題提供(学生視点から)を行い学内教育改善・学生支援に参画 |
| 20 | 前田ら | 2014 | 大阪大学における学生参加型FD・教育改善活動の比較分析：バンキョー革命・STAR 阪大・人科祭シンボを事例として | 大阪大学 | 学生参画型FD | バンキョー革命：「学生・教職員懇談会の企画・開催」 「教育改善関連イベントの企画・開催」 STAR阪：「京大・阪大合同イベントの開催」 「京阪ゼミの開催」 「共通教育フォーラムの企画・運営」 人科祭シンボ：「学生・学生・08へのアンケートやイベントの実施」 「授業改善のためのシンボジウム」の企画・開催 |
| 21 | 和賀 | 2014 | 学生発案型授業「Let's Cooking! 地域のひと自炊力を鍛えよう!!」の成果と課題 | 岡山大学 | 学生参画型FD | 教育開発センター部門の一部をなす正式な委員会である改善委員会(学生委員30名、教職委員15名で形成)が制作した学生発案型授業 |
| 22 | 若宮ら | 2014 | 学生FDサミット2013年夏 分科会開催報告：それでも僕らは考えたい 学生FDの「思い」、高等教育フォーラム | 京都産業大学 | 学生FD | 全国学生サミット(2013)での分科会の企画開催(参加者数80名；学生71名、教職員9名) テーマ：それでも僕らは考えたい 学生FDの「思い」 |
| 23 | ホートン広瀬ら | 2014 | 芝浦工業大学における学生参画型FD活動 / 産業社会学部学生参画型FD懇談会の取組 | 芝浦工業大学 | 学生参画型FD | 教員へのFD支援活動の一つであり、SCOT学生はSCOT研修を受け登録審査を経て認定された学生。 SCOTプログラムの活動内容：教員の授業観察、教員との事前事後打ち合わせ、履修生への聞き取り結果を教員にフィードバック、SCOT学生が必要と考える資料・マニュアル作成、研修活動、学外活動への参加 |
| 24 | 山本 | 2014 | 学生参画で大学が変わる / 産業社会学部学生参画型FD懇談会の取組 | 立命館大学 | 学生参画型FD | 学生参画型FD懇談会：授業についての教員と学生の意見交換会を1〜2回/年度開催 参加者数：学生18名、教職員28名 【テーマ1】ESの役割って何？ 【テーマ2】学生の「これを学んでおきたい！」から生まれたD-Plus主催企画「はじめてのレポート作成講座」 【テーマ3】「サブゼミ」って必要？一エントナーとの意見交換 |
| 25 | 浅野ら | 2015 | 学生が変わる日本大学(第1章)「日本大学 学生FD, CHAmmit 2013」における取り組み | 日本大学 | 学生FD | 学生FDによる「日本大学 学生FD CHAmmit 2013」の企画・開催 ・学生FDとは何か？授業、教育、学修に関連したテーマ討論会 |
| 26 | 梅村ら | 2015 | 追手門学院大学の学生FD活動紹介(2015, 第20回FDフォーラム第3分科会学生FDと大学マネジメント) | 追手門学院大学 | 学生参画型FD | Best Teacher Award、研究室訪問、教員インタビュー、追大教員図鑑、学生発案型授業、学生FDのWA!!!、活動報告冊子「エフモン・クエスチョン」の作成 |
| 27 | 平岡ら | 2015 | 京都文教大学における学生FDと大学マネジメント(2015, 第20回FDフォーラム第3分科会学生FDと大学マネジメント) | 京都文教大学 | 学生参画型FD | FDの活動：大学の教学改善全般。自校教育の企画・立案・運営など。高校生への大学紹介など。SuperSAの活動：SAの説明会、中間報告会、振り返り会、ファシリテーション研修の企画・立案・運営。 |
| 28 | 山下ら | 2015 | 看護学教育における大学マネジメントと学生FD(2015, 第20回FDフォーラム第4分科会学生FDと大学マネジメント) | 島根県立大学 | 学生FD | 学生を対象にした「大学を変える、学生が変わる」特別講義、教職員に「学生と進めるFD」を講演、学生FDによる「しやべり場」の開催、 |
| 29 | 安村ら | 2015 | 学生FDと大学マネジメント～中京大学からの報告～(2015, 第20回FDフォーラム第5分科会学生FDと大学マネジメント) | 中京大学 | 学生FD | ①授業内容の向上：学生FDシンボジウムの開催(授業評価アンケートについて教員からどう活用しているか学生に講演、質疑応答、学生と教員で授業アンケートの在り方を検討) ②学修環境の向上：クリミアンアップ作戦(教室等の清掃) ③他校と交流：学生FDサミットへの参加 |

表1 対象文献の概要(つづき)

| 文献No | 著者/報告者 | 年 | 文獻・報告書のタイトル | 活動大学 | FD活動のタイプ | 主な活動内容 |
|------|--------|------|---|--------------------|--------------|---|
| 30 | 石田ら | 2015 | ラーニングコミュニティにおける学生スタッフ活動を通しての学生の成長 | 京祐産業大学 | 学生参画型FD | 学生スタッフ(LCS)は大学の臨時職員として雇用。施設の保守管理業務の補助を行いながら、学内の教職員と協力しながら業務外で施設の利用促進のためにイベントの企画・活動を行う。 ICTセミナー、「グループワークを活性化させるには?~あなたならどうする?~」ほか |
| 31 | 酒井ら | 2015 | FD研修会への学生参加の試み | 順天堂大学 三島キャンパス | その他:教員主催 | 学生参加のFD研修会を開催 テーマ:アクティブ・ラーニングの実践~講義・演習・実習において、自ら学ぶ学生を育てる工夫とは~ アクティブラーニングを実践していく際に課題に感じていることについて意見交換を実施 参加者数62名(教職員41名,他学部教員4名,附属病院職員3名,学生14名) |
| 32 | 吉田ら | 2015 | 日本大学文理学部学生FDワーキンググループ活動の軌跡と今後 | 日本大学 | 学生参画型FD | 学生によるFD活動の団体を文理学部FD委員会の下部組織として位置づけ。 学生が企画・立案する授業を開設/しゃべり場の開催:教員、職員、学生がテーブルを囲み、授業に関する意見交換を行う場を提供/学生FDサミットへの参加/学生FDの広報活動 |
| 33 | 高橋ら | 2016 | 生命科学部における学生参画型FD活動開始報告 | 東京薬科大学 | 学生参画型FD | 学生FD委員が授業改善を課題に活動を実施:授業アンケート、学生アンケートに基づき意見を共有すべき教員を選定し教員インタビューの実施、教員との意見交換、結果を冊子にして学生に回答をフィードバック、教員に授業改善資料で報告 |
| 34 | 瀬戸山ら | 2016 | 学生が変わる日本大学(第2章)「日本大学学生FD CHAMMIT 2014」における取り組み | 日本大学 | 学生FD | 「日本大学 学生FD CHAMMIT 2014」の企画・開催 「しゃべり場」の開催。(参加者数180名) |
| 35 | 川那部 | 2016 | 立命館大学におけるピア・サポーター団体間の連携を促す試み | 立命館大学 | 学生参画型FD、学生FD | ピアサポーター団体:新入生の大学生活への適応を支援する「オリター・エンター活動」、留学生支援、障害学生支援、学習支援など。ピア・サポーター団体同士の連携を促進する「P4P (Peer Support for Peer Supporter)」 |
| 36 | 森川ら | 2017 | 学生による授業改善情報収集(PASS)の取組み報告 その経緯とサベピス概要 | 創価大学 | 学生参画型FD | 授業改善に関心のある教員を募り、PASSコンサルタント(教員)がクワイアネット教員と面談し、授業観察内容を協議。学生(PASS学生)が授業を観察し、授業改善のための情報を収集。収集した情報をもとに、PASSコンサルタントがクワイアネット教員とメンタリングを行い、授業改善を支援 |
| 37 | 太田ら | 2017 | 学生が変わる日本大学(3章)「日本大学学生FD CHAMMIT 2016」における取り組み | 日本大学 | 学生FD | 「学生FDサミット2016・日本大学 学生FD CHAMMIT 2015」の同時開催の企画・運営 「しゃべり場」テーマ:「自学部のお気に入りの授業」「自学部自慢」「あったらいいな、こんな授業」(参加者数190名) |
| 38 | 桑島 | 2018 | 学生提案型授業の試行的実践,地域デザイン科 | 宇都宮大学 | その他 | 学生提案型授業の企画・実施 授業はFDの一環として全日公開し、延べ33名の教職員が見学。最終回では受講者のプレゼンテーションに対して教職員・学生による意見交換を実施。 |
| 39 | 尾崎 | 2018 | 大阪薬科大学におけるFD活動の新しい取り組み | 大阪薬科大学 | 学生FD | 学生FD委員会1~4年次の20名程度の有志から構成される。 教員FD委員会と学生FD委員会が授業アンケート改善に向けて意見交換を実施 |
| 40 | 佐藤ら | 2018 | 「京産共創プロジェクトIV シラバス論争: THE FIRST MISSION」実施報告: 学生・教員・職員で考える理想のシラバス,高等教育フォーラム | 京祐産業大学 | 学生FD | 京都産業大学の学生FDスタッフAC稼が、授業の自身で授業を選択するようになるには、シラバスにどのような工夫が必要か話し合うイベントを開催。グループワークのファシリテーターは学生FDが担当。 参加者数72名(学生36名、教職員36名) |
| 41 | 吾郷ら | 2018 | 島根県立大学・学生FD「縁(えにし)」の始動と5年の経緯 | 島根県立大学 学出雲キャンパス | 学生参画型FD | 学生FD「縁」が2014年より活動している。副学長より委嘱状が交付される。 新入生を対象とした履修登録相談会、お悩み相談会/「しゃべり場」の開催/「教員図鑑」や「教職員と分野の紹介」冊子の作成/入学前の登壇交流会イベント/副学長との懇談会 |
| 42 | 藤田ら | 2018 | 「しゃべり場」で学生FDが考えた「看護学部にとつてのよい大学、よい授業」 | 島根県立大学 学出雲キャンパス | 学生参画型FD | 学生FDに関する情報収集や情報共有を目的とした学生FDサミットへの参加。 週1回程度のミーティングの実施。教職員と学生がテーマを決めて自由に話し合う「しゃべり場」の開催。テーマ:「良い授業とは」 |
| 43 | 佐々木ら | 2018 | 学生・教職員と共に創る学習支援の場としての図書館 徳島大学附属図書館と学びサポーター部との協働事例 | 徳島大学 | 学生FD | 図書館と大学公認サークル協働による学生支援 1.学習相談の提供:教職員や大学院生がアドバイザーとして学生の学習相談に対応。 平日の授業期間中、毎日実施。 2.運営体制:学びサポーター部が教員アドバイザーの選定、時間割作成、連絡調整、掲示物作成、活動報告などを担当。教員アドバイザーとの双方向の意見交換。 |
| 44 | 坂本ら | 2018 | 「学生が変わる日本大学」4章:「日本大学学生FD CHAMMIT 2017」における取り組み | 日本大学 | 学生FD | 「日本大学学生FD CHAMMIT 2017」の開催企画・運営 「しゃべり場」の開催 テーマ:初年次教育について(参加者数200名) |

日本における学生参加型FDの活動内容と課題に関する文献検討

表1 対象文献の概要(つづき)

| 文献著者/No | 年 | 文獻・報告書のタイトル | 活動大学 | FD活動のタイプ | 主な活動内容 |
|---------|------|---|---------|---------------|--|
| 45 海浮ら | 2019 | 「学生が変える日本大学」第5章:「日本大学学生FD CHAmmit 2018」における取り組み | 日本大学 | 学生FD | 「日本大学学生FD CHAmmit 2018」の開催企画・運営 「しゃべり場」テーマ:「日本大学教育憲章」「大学生が考える大学生に必要な能力」一今の日大生(自分)に足りていない能力は?について意見交換を実施(参加者数232名) |
| 46 西村ら | 2019 | FD実践報告「学生と一緒に考えるアクティブ・ラーニング英語授業」 | 弘前大学 | その他:教員FD委員会主催 | 教養教育英語の充実を目指し、所属や立場を超えた議論の場企画。アクティブ・ラーニング型授業について、体験的なワーキング英語の授業の実施。 |
| 47 大谷ら | 2020 | 学生参加型FDワークショップによる授業アンケートの改善提案 | 摂南大学 | その他:理工学部FD委員会 | 学生参加型ワークショップを開催。学生目線での授業アンケートの実施時期、回答方法、質問数・項目、結果の活かし方について意見交換を実施。 |
| 48 橋本ら | 2020 | 「山口県立大学における学生スタッフ制度と組織課題解決(PBL)学生プロジェクトの軌跡」 | 山口県立大学 | 学生参加型FD | 参加者数:理工学部6学科から各2名(2,3年生中心)。理工学部教員7名 ピアサポーター型:留学生チューター、授業補助型:授業補助SA型、TOEIC対策支援、学生参加型:Nプロジェクト、地域文化再検討、大学業務補助型:入学式・卒業式スタッフ型、学生ライブラリアン、オープンキャンパススタッフ、広報スタッフ型、保護者懇話会スタッフ型、構内放置自転車管理など |
| 49 吉川 | 2021 | 「岡山大学SDGsアンバサダー」による学生発案型授業の実践から見る課題と展望 | 岡山大学 | その他:学生有志による活動 | SDGsアンバサダー有志10名による学生発案型授業の検討。教員を交えた企画検討、科目案内ポスター作成、講義依頼する企業とのうちあわせの実施。授業運営は教員が実施。 |
| 50 磯部ら | 2022 | 「令和元年度日本大学学生FD CHAmmit」における取り組み | 日本大学 | 学生FD | 「令和元年度日本大学学生FD CHAmmit」の開催企画・運営 |
| 51 竹田ら | 2022 | 「令和2年度日本大学学生FD CHAmmit」における取り組み | 日本大学 | 学生FD | 「令和2年度日本大学学生FD CHAmmit」の開催企画・運営 オンライン授業に関するシンポジウム:CHAmmitの報告を踏まえて学生と教職員がそれぞれの視点からオンライン授業のメリット・デメリット、オンライン授業の未来について考え、学生・教員による意見交換(参加者数225名) |
| 52 中里 | 2022 | 学生参加型FDの有効性と継続性—岡山大学を事例として— | 岡山大学 | 学生参加型FD | 授業改善:授業の改善または充実に向けた取組み(授業評価アンケートの改善、シラバスの改善、学生発案型授業) / システム改善:大学教育に関する制度やその運用の改善提案(上限制についての検討、成績確認画面の改善提案) / 学生交流:学内外の学生・教職員を対象として実施するイベント型の企画(新入生対象履修相談会の実施、教育改善学生交流、フオーラムの企画) / その他:施設設備に関する要望 |
| 53 竹田ら | 2022 | 学生が変える日本大学—「令和3年度日本大学学生FD CHAmmit」に関する報告書— | 日本大学 | 学生FD | 「令和3年度日本大学学生FD CHAmmit」の開催企画・運営(オンライン形式) テーマ:キャンパスライフのメリット・デメリット、アフターコロナの日本の教育、IT化と大学教育~学部への提案~(参加者数245名) |
| 54 松原ら | 2022 | 近年の商学部・大学院商学研究科のFD活動 | 日本大学商学部 | 学生FD | FD活動「フイードバックについて学生と一緒に考える」 学生FDの紹介、オンライン授業について学生と教員の意見交換 |
| 55 土屋ら | 2023 | 学生が変える日本大学—「令和4年度日本大学学生FD CHAmmit」に関する報告書— | 日本大学 | 学生FD | 「令和4年度日本大学学生FD CHAmmit」の開催企画・運営(オンライン形式) テーマ:「あなたにとって大学とは、何ですか?」「大学で、何を、何のためにどのように学びたいと思いますか?」「思い描いた大学生活を送れていますか?」「あなたの理想は達成できていますか?」「あなたにとって、大学とは何ですか?~学部への提案~」の意見交換を実施(参加者数255名) |
| 56 小原ら | 2023 | 福岡工業大学学生FD FIT-joinの活動報告 | 福岡工業大学 | 学生参加型FD | 授業改善を学生の視点から教職員と一緒に考え、教職員と学生を“つなぐ”活動 学生の意見を教職員に伝える活動(学生アンケート&FD Cafe) / 教員の想いを学生に伝える活動(教員インタビュー) / 学生の学びを深める活動(Join-Talks 企画・運営、学生ブレゼンテーション企画/学生同士の学びのコミュニケーションづくりに係る活動(新入生オリエンテーションの企画・運営、学生団体連携事業) / 広報活動(Future Design 作成、立花祭、インスタグラム) |
| 57 相崎ら | 2024 | 学生が変える日本大学—「令和5年度日本大学学生FD CHAmmit」に関する報告書— | 日本大学 | 学生FD | 「令和5年度日本大学学生FD CHAmmit」の開催企画・運営(対面形式) テーマ:「あなたにとって大学とは何ですか?~日本大学の未来を語ろう~」 大学で学ぶ目的について議論、実際の授業環境における理想と現実を共有、あなたにとって理想の大学とは何ですか?~学部への提案への意見交換を実施。(参加者数230名) |
| 58 荒木ら | 2025 | 学生が変える日本大学—「令和6年度日本大学学生FD CHAmmit」に関する報告書— | 日本大学 | 学生FD | 「令和6年度日本大学学生FD CHAmmit」の開催企画・運営 『他の人にオススメしたい授業』『自分が受けた授業で見つけた改善すべき点』『私たちが未来に活かすために』について行けん交換を実施 |

表2 FDの分類と報告件数(重複あり*)

| FDの分類 | | 学生参画型 FD | 学生 FD | その他 | 計 |
|----------------------|--|-------------|----------|-----|----|
| 【ミクロ】 ピアサポート | ピサポート(履修相談、学習支援、留学生支援、入学前支援など) | 10 | 2 | — | 12 |
| | 教員の思いを学生に伝える、学生の思いを教員に伝える(アンケート、教員インタビュー、教員図鑑作成など) | 3 | — | — | 3 |
| 【メゾ】 学修教育改善 支援 | 教職員学生の意見交換(しゃべり場、FDサミット、懇談会、交流会など) | 9 | 21 | 4 | 34 |
| | 学生発案型授業 | 3 | — | 2 | 5 |
| | 教員への授業支援(授業観察、授業コンサルティングなど) | 4 | — | — | 4 |
| 【マクロ】 大学運営 | 大学運営(授業システム等の改善、全学会議への参画、大学執行部との協議など) | 6 | — | — | 6 |

*1つの文献に複数の内容が含まれる文献がある

がっていた取り組みであり⁵⁹⁾、3者が三位一体となって教育の質改善にとりくむという考え方である。特に、日本大学は2009年度から日本大学全学部学生、教職員を対象に学生自らが企画・運営する「日本大学 学生FD CHAmmiT」を開催している。日本大学では、平成20年に日本大学FD推進センターを開設し、「自主創造」の教育理念・目的の下、教職協働・学生参画を意識し、ファカルティ・ディベロップメントを全学的に推進している。「日本大学 学生FD CHAmmiT」は、全国の各大学が一大学に集合して大々的に行われる「学生FD サミット」と違い、CHAmmiTとはサミットとチャットを掛け合わせた造語であり、「難しく堅苦しい話でも教員・職員・学生で気軽に話し合おう」というコンセプトが包括されているとしている³⁴⁾。この活動は、コロナ禍ではオンライン開催するなど開催方法を工夫しながら、2024年まで継続して行われている。学生FDスタッフは大学公認組織ではなく、学生による活動であり、学生FDスタッフが開催までに数回のミーティングを重ね、テーマや当日の運営、開催の広報活動まで行う。全学部の学生・教職員が毎年200名程度参加している。「しゃべり場」という用語を用いていないものの、学生と教職員が自由に意見を言い合う交流会、フォーラムなど授業改善について小グループで話し合う活動も報告されており、学生主体の活動の中心となっている。教員や大学が主催している報告も4件¹⁵⁾³¹⁾⁴⁶⁾⁴⁷⁾あった。

学生FDが「しゃべり場」を開催するきっかけは、全国「学生FDサミット」の影響が推測される。「学生FDサミット」の参加校や、「学生FD」サミットへの参加がきっかけで活動を開始した大学もある²⁸⁾⁴¹⁾。活動を進めるためには、教員や学生の認知度が課題で

あり、日本大学や島根県立大学では、活動開始時に学生や教員に対して学生FDについて説明を実施していた。「しゃべり場」の主なテーマは、授業改善、良い授業に関する意見交換、授業アンケート、シラバス、良い大学、大学の学びとは、など多様であった。

その他には、教員の思いを学生に伝える、学生の思いを教員に伝える活動があり、学生参画FDで3件であった。例えば追手門学院大学²⁶⁾や島根県立大学²⁸⁾では、教員へのインタビューや、研究室訪問、教員図鑑などを作成していた。

学生参画型FDに特徴的であった活動は、教員の授業支援であり、授業観察や授業改善に向けたコンサルティングが4件であった。芝浦工業大学²³⁾のSCOT(Student Consulting on Teaching)学生は、正課外活動であるSCOTプログラムの研修参加、認証、登録された学生であり、学内臨時職員に位置づけられている。教員の依頼を受けて授業観察、事前事後打ち合わせ、フィードバックを行う。またSCOTのようにPASS(Peer Assessment Support Service)学生と呼ばれる学生の力を借りて、授業改善のための情報収集を行い、かつ、クライアント教員へのコンサルティングはメンターである教育・学習支援センター教員が行い、教員を支援する制度を導入している大学もあった³⁶⁾。

学生発案型の授業の企画は5件あった。学生発案型授業には、学生の問題意識から開始されるケース、学生参画型FDと全学FD推進組織が協働して検討を行うケース、大学側から学生参画型FDに依頼されるケースがある⁵²⁾。

3) 大学運営：マクロ

大学運営に関する活動は、学生参画型FDで報告さ

れている活動であり6件であった。立命館大学では¹⁵⁾、学生自治会と学部執行部が定期的に懇談会を持ち、教学に関して学生の要望、意見を聴取している。全学協議会で学生代表と大学執行部等が次の教学政策を協議する機会が保証され、とりまとめられた内容が報告書で全学の教職、学生に広報されている。岡山大学でも2001年に学生が正式なメンバーとして参加する「学生・教員FD検討会」が教育開発センターの一部として発足し、教育開発センター教育開発協議会FD専門委員会の指導により、学生・教員双方の協力のもと、教育全般に関する企画・提言を行い、岡山大学の教育の改善を推進することを目的としている。学生FD委員会の委員長は学生であり、学生の提案は教員を含めた月1回の全大会で議論・審議され、大学の公的な審議ルートにのる形である。活動には、上限制についての検討や成績確認画面の改善提案など大学教育に関する制度やその運用の改善提案、施設設備に関する要望がある¹⁸⁾⁵²⁾。しかし、岡山大学の学生FD組織は2019年度で活動を終了している。

その他、インスタグラムや高校生への大学紹介などの広報活動に学生の立場から関わる広報活動²⁷⁾⁵⁶⁾、就職活動を盛り上げるなど大学運営に関するピア・サポート¹⁵⁾、オープンキャンパスや入学式・卒業式の学生スタッフなど、大学の業務補助が学生FD活動に位置づけられている大学もあった⁴⁸⁾。

3. 課題

課題について明確に記載されていた文献は17件であった。日本大学の学生FD報告は主催学生が各自でレポートとしてふり返りを記載しているため、各学生が記載した課題は対象としなかった。今後の継続性に関する課題が6件¹⁶⁾³⁸⁾³⁹⁾⁴⁰⁾⁴⁹⁾⁵²⁾で最も多かった。他には、学生参画型FDにおけるFD学生の確保²³⁾³⁶⁾⁴⁹⁾、企画に対する学生参加者数の確保¹⁵⁾³¹⁾⁴³⁾⁵⁷⁾、学生FDの関する認知や理解の低さ¹⁵⁾²³⁾³¹⁾³³⁾⁴⁶⁾があり、特に授業支援に関して教員の抵抗感が課題とされていた。また、企画運営する際の学生や教員の負担¹⁹⁾⁴³⁾や活動に際する財源や予算の確保⁴¹⁾⁴³⁾も報告されていた。学生FD活動における学生スタッフには有償と無償のケースがあり、加えて、大学公認組織においては活動予算の有無も運営に関わる。しかし、これらの点については一部の文献に記載されたのみであり、その具体的な内容を把握することはできなかった。

V. 考察

ピア・サポートでは、大学公認の公的組織、学生自

治会、学生有志による団体などにより、授業に参加し直接支援する正課内での学習支援から、履修相談や図書館の利用、レポート作成支援などの正課外での学習支援、さらには大学生活支援、就職支援、留学生支援など多様な学生同士によるサポートが行われていた。本学科でも、教務委員会と学生委員会が、初年次生を対象に上級生による「学び方支援プログラム」を企画しており、参加学生はボランティアである。また、講義、演習等において上級生による学習支援、相互学習を実施している科目もある。例えば、これらの企画を学生と共に企画・運営することで、学生の意見も反映された企画となり、学生の主体的な参画にもつながると考える。

教育改善支援では、授業改善への直接的な活動は学生参画型FDにおいて報告されていた。いずれも教育支援センターや全学FD委員会の下部組織に位置づけているなど組織体制が明確であり、学科単位での活動は困難である。また岡山大学のように、学生参画型FDの先駆けであった大学でも2019年度に活動組織が終了しており、継続が難しいといえる。学生参画型FDの継続には、単に組織を設置するだけでなく、学生と教員双方のモチベーションを維持しながら、活動成果を可視化するような仕組みづくりも必要であると考える。

教育改善支援で学生FD、学生参画型FDともに最も多い活動が、学生教職員が一堂に会して意見交換を行う、いわゆる「しゃべり場」の開催であることがわかった。「しゃべり場」は全国の学生FDサミットで広がっていったが、2019年度の開催を最後にコロナ禍により学生FDサミットも中止となった。全国学生FDサミットへの参加校には看護系大学では島根県立大学が参加しており、学生FD活動として現在も「しゃべり場」の開催が継続されている。本学科においても、内部質保証の一環として授業評価アンケートや学生調査の結果をふまえて改善に向けて取り組んでいるが、改善に向けた提案は教員が考えることが中心となっている。学生に対してアンケート結果の報告や改善策については伝えているものの、そのプロセスにおいては一方的であるといえる。今回の調査から、多様な学生の声を聞く、学生と教員が双方向で意見を出し合うこと、さらには職員も含めて学科全体の教育改善を検討することの重要性が示唆された。少子化により、入学生の確保がますます困難となっている中、学生の意見を反映した魅力ある大学づくりが課題であり、「しゃべり場」の開催が1つの方法であると考えられる。また、教員と話す機会が多い学生のほうが大学への愛着が高い可能性があることが示唆されており⁶⁰⁾、学生の主体的参画

にもつながる可能性がある。一方、「しゃべり場」の開催においては、学生FD活動への学生や教員の認知度が低いことが課題として挙げられており、参加者の確保が困難であると推測される。そのためには、日本大学や島根県立大学の取り組みのように、学生FDの必要性を教員、学生に伝えながら、まずは学生の意見を聞く、共に考える場をつくることから開始することが望ましいと考える。活動を行うにあたり、副学長・事務室長の理解と協力、中心となる教員の存在が必要であり⁴¹⁾、学科内の教職員の理解が得られるように働きかけることが重要であると考え。また、意見交換の際は、単なる不満を述べるだけでなく、学生FDの定義にあるように⁸⁾、学生と教職員が協働して取り組む意識が必要であり、学生参加型FDの目的を学生と教員ともに共通認識することが重要である。そのためには、日本大学の「しゃべり場」のように改善案まで、学生と教職員がともに考えることが大切であると考える。一方、公的組織ではないため意思決定の議決権がなく、学生FD活動での提案や意見がどのように反映されるのか具現化することが課題としてあげられており¹⁶⁾、開催にあたっては学生の意見がどう活用されたか学生にフィードバックできる仕組みの検討も必要である。

大学運営において高校生への紹介、新入生オリエンテーション、オープンキャンパスのスタッフなど、学生FDスタッフが役割を担っている大学もあった。本学でもオープンキャンパスで学生がスタッフとして参加しているが、アルバイトという形であり、学生と教職員がともに大学の広報活動を行うという認識には至っていないと推測される。これらの活動においては、学生を労働力として活用する方向に向かうことが懸念されており⁴⁸⁾、FD活動の意義を確保するためには、活動を通じて学生が主体的に考え、学びを得る機会とすることが重要である。また、教員にとっても、こうした活動を学生理解や教育改善の視点で捉え、学生の経験や意見を教育実践に活かすことが求められる。

学生が主体的に活動するFDで興味深かった点は、日本大学の「CHAmmiT」、島根県立大学の「縁」、京都産業大学の「燦」、徳島大学の「繋ぎ create」のように、学生達自身が活動の名前を考えていることである。本学科で導入する際にも、FD活動に参加した学生にFD活動の名前を考えてもらうことで、主体的な学生参画への第一歩となると考える。

最後に、学生FDの必要性について、創価大学や立命館大学では大学の理念や建学の精神に則り学生の活動を位置付けている。本学科も「ともに学び、ともに成長する」ことを大切にしており、本学科の教育の質

向上に向けて学生とともに考え成長する学科でありたいと考える。それを支援することが本学科FD委員会の役割であるといえる。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省中央教育審議会. 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申). 2012 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm (閲覧日 2025年7月20日)
- 2) 山田剛史. 大学教育センターからみたFD組織化の動向と課題. *国立教育政策研究所紀要*2010 ; 139 : 21-35.
- 3) 文部省高等教育局. 大学における学生生活の充実方策について (報告) - 学生の立場に立った大学づくりを目指して -. 2000 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm (閲覧日 2025年7月20日)
- 4) 中里祐紀. 学生参画型教育改善活動における一般学生の参画-学生参画型FDを事例として-. *大学経営政策研究* 2025 ; 15 : 91-107. doi: https://doi.org/10.51019/daikei.15.0_91
- 5) 文部科学省中央教育審議会. 2040年に向けた高等教育のグライントデザイン (答申). 2018 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm (閲覧日 2025年7月20日)
- 6) 大学基準協会大学評価研究所. 質保証における学生参画のあり方に関する調査研究報告書. 2024 <https://www.juaa.or.jp/media/files/pdf/research/document/%E8%B3%AA%E4%BF%9D%E8%A8%BC%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E5%AD%A6%E7%94%9F%E5%8F%82%E7%94%BB%E3%81%AE%E3%81%82%E3%82%8A%E6%96%B9%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf> (閲覧日 2025年7月20日)
- 7) 武寛子. スウェーデンにおける学生参画による大学教育の質保証-「大学への影響力をもつ学生」の形成へ向けて-. *比較教育学研究* 2018 ; 56 : 46-67. doi : https://doi.org/10.5998/jces.2018.56_46
- 8) 木野茂編著. 学生、大学教育を問う-大学を変える、学生が変わる3 (2015) ナカニシヤ出版. 京都
- 9) 中里祐紀. 学生参画型FD 研究の現状と課題. *東京大学大学院教育学研究科紀要*, 2022, 62.
- 10) 服部憲児. 学生参加型FD・教育改善にみられる共通

- 特性. *大阪大学高等教育研究* 2012 ; 1 : 1-8.
- 11) 田中正弘 (2018) 日本の大学における学生参画 : 質保証への参画を中心として *大学研究* 巻45, p.17-30, 発行日 2018-12
 - 12) 梅村修. キーワードで読み解く大学改革の針路第5回学生FD] *Between* 2015 ; 4 - 5月号 ; 32. https://shinken-ad.co.jp/between/backnumber/pdf/2015_4_keyword.pdf (閲覧日 2025年7月20日)
 - 13) 鈴木学. 日本の大学教育における学生参画型支援プログラムの類型に関する一考察. *東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要* 2019 ; 5 ; 93-106.
 - 14) 浦邊研太郎, 光宗榮, 福島沙奈, 吉田博. 学生による徳大生の正課外活動支援-真剣徳大しゃべり場の企画・開催を通して-. *平成22年度大学教育カンファレンス in 徳島* 2010 ; 34-35.
 - 15) 沖裕貴, 宮浦崇, 林泰子. 高等教育における学生参画の制度: 立命館大学の事例を中心に (課題研究 高等教育の改革と実践及び評価 1, 教育情報のイノベーション~ デジタル世代をどう導くか~). *卒会論文集* 2011 ; 27 : 74-77.
 - 16) 林隆二, 乙倉孝臣, 山内尚子, 中沢正江. 共創風土を醸成する「燦 presents『京産共創』プロジェクト」: 学生を中心とした Organization Development の取組. *高等教育フォーラム* 2012 ; 2 : 91-98.
 - 17) 林隆二, 伊藤琴音, 南太貴, 乙倉孝臣, 山内尚子. マイケル・サンデル型授業で学生・教員・職員はどう変わるか: 燦結成1周年記念イベント「京都産業大学にとって白熱教室とは?」の取組を通して. *高等教育フォーラム* 2013 ; 3 : 59-64.
 - 18) 池ヶ谷浩二郎; 小林光義; 関田一彦. 創価大学における大学運営への学生参画の現状と展望. *学士課程教育機構研究誌*, 2: 103-110.2013
 - 19) 吉田博. 学生が参画する教育改善・学生支援活動の効果検証に関する一考察: 徳島大学学生チーム「繋ぎcreate」の事例から. *大学教育研究ジャーナル* 2013 ; 10 : 9-20.
 - 20) 前田裕介, 服部憲児. 大阪大学における学生参加型FD・教育改善活動の比較分析: パンキョー革命・STAR 阪・人科祭シンポジウムを事例として. *大阪大学高等教育研究* 2014 ; 2 : 33-48.
 - 21) 和賀崇. 学生発案型授業「Let's Cooking! 地域の人と自炊力を鍛えよう!!」の成果と課題. *大学教育研究紀要* 2014 ; 10 : 151-160.
 - 22) 若宮健, 乙倉孝臣, 越山沙紀 他. 学生FDサミット2013年夏 分科会開催報告: それでも僕は考えたい 学生FDの「思い」, *高等教育フォーラム* V2014 ; 4 : 115-121.
 - 23) ホートン広瀬恵美子, 榊原暢久. 芝浦工業大学における学生参画型FD活動 SCOT プログラム. *京都大学高等教育研究* 2014 ; 20 : 31-38.
 - 24) 山本愛. 学生参画で大学が変わる/産業社会学部学生参画型FD懇談会の取組. *立命館高等教育研究* 2014 ; 14 : 161-175.
 - 25) 浅野和香奈, 瀬戸山自然, 前川貴恵 他. 学生が変える日本大学 (第1章)「日本大学 学生FD CHAmmiT 2013」における取り組み. *日本大学FD研究* 2015 ; 3 : 29-50.
 - 26) 梅村修, 岸岡奈津子. 追手門学院大学の学生FD活動紹介. 2014年度第20回FDフォーラム第3分科会学生FDと大学マネジメント. 2015. <https://www.consortium.or.jp/wp-content/uploads/fd/10195/03bunkakai-20thfdf.pdf> (閲覧日 2025年7月20日)
 - 27) 平岡聡, 村山孝道. 京都文教大学における学生FDと大学マネジメント. 2014年度第20回FDフォーラム第3分科会学生FDと大学マネジメント. 2015. <https://www.consortium.or.jp/wp-content/uploads/fd/10195/03bunkakai-20thfdf.pdf> (閲覧日 2025年7月20日)
 - 28) 山下一也, 吾郷美奈恵. 看護学教育における大学マネジメントと学生FD. 2014年度第20回FDフォーラム第4分科会学生FDと大学マネジメント. 2015. <https://www.consortium.or.jp/wp-content/uploads/fd/10195/03bunkakai-20thfdf.pdf> (閲覧日 2025年7月20日)
 - 29) 安村仁志, 安田俊哉. 学生FDと大学マネジメント~中京大学からの報告~. 2014年度第20回FDフォーラム第5分科会学生FDと大学マネジメント. 2015. <https://www.consortium.or.jp/wp-content/uploads/fd/10195/03bunkakai-20thfdf.pdf> (閲覧日 2025年7月20日)
 - 30) 石田悠, 笹山晴菜, 山口由莉子, 桑智也, 千葉美保子, 松井きょう子. ラーニングコモンズにおける学生スタッフ活動を通しての学生の成長. *高等教育フォーラム* 2015 ; 5 : 189-195.
 - 31) 酒井太一, 遠藤りら, 黒川佳子 他. FD研修会への学生参加の試み. *順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究* 2015 ; 3 : 67-72.
 - 32) 古田智久, 今宮加奈未, 安田結城. 日本大学文理学部学生FDワーキンググループ活動の軌跡と今後. *日本大学FD研究* 2015 ; 3 : 13-27.
 - 33) 高橋勇二, 奥田彩也夏, 梅村知也. 生命科学部における学生参画型FD活動開始報告. *東京薬科大学研究紀要* 2016 ; 19 : 43-50.
 - 34) 瀬戸山自然, 田仲義典, 安田結城, 馬渡惟史. 学

- 生が変わる日本大学 (第2章)「日本大学 学生 FD CHAmmit 2014」における取り組み. *日本大学FD研究* 2016 ; 4 : 83-100.
- 35) 川那部隆司. 立命館大学におけるピア・サポート団体間の連携を促す試み. *立命館高等教育研究* 2016 : 16 : 55-64.
- 36) 森川由美, 富岡比呂子, 関田一彦, 望月雅光. 学生による授業改善情報収集 (PASS) の取り組み報告 その経緯とサービス概要. *学士課程教育機構研究誌* 2017;6: 79-88.
- 37) 太田翔, 久木巨佑, 橋本茉莉加 他. 生が変わる日本大学 (3章)「日本大学 学生 FD CHAmmit 2016」における取り組み. *日本大学FD研究* 2017 : 5 : 51-68.
- 38) 桑島英理佳. 学生提案型授業の試行的実践. *宇都宮大学地域デザイン科学部研究紀要「地域デザイン科学」* 2018 ; 4 : 107-113.
- 39) 尾崎恵一. 大阪薬科大学におけるFD活動の新しい取り組み. *薬学教育* 2018 ; 2 : 1-5.
- 40) 佐藤里奈, 田村玖美, 福島寛史, 森脇可奈子. 「京産共創プロジェクト IV シラバス論争: THE FIRST MISSION」実施報告: 学生・教員・職員で考える理想のシラバス. *高等教育フォーラム* 2018 ; 8 : 95-100.
- 41) 吾郷美奈恵, 金山俊介, 小田香澄 他. 鳥根県立大学・学生FD~縁(えにし)~の始動と5年の経緯. *看護と教育* 2018 ; 9(1) : 4-7.
- 42) 藤田小矢香, 長島玲子, 吾郷美奈恵. "しゃべり場"で学生FDが考えた「看護学部にとってのよい大学・よい授業」. *日本医学看護学教育学会誌* 2017 ; 26(1) : 9-15.
- 43) 佐々木奈三江, 亀岡由佳. 学生・教職員と共に創る学習支援の場としての図書館 徳島大学附属図書館と学びサポート企画部との協働事例. *大学図書館研究*, 2018 ; 110 : 1-11.
- 44) 坂本裕菜, 永直樹, 石田大悟 他. 「生が変わる日本大学」4章:「日本大学学生 FD CHAmmit 2017」における取り組み. *日本大学FD研究* 2018 ; 6 : 93-108.
- 45) 海浮裕太, 松永直樹, 坂上亮介 他. 「生が変わる日本大学」第5章:「日本大学 学生 FD CHAmmit 2018」における取り組み. *日本大学FD研究* 2019 ; 7 : 45-64.
- 46) 西村君平, 中村裕昭, 立田夏子, バードセール・ブライアン, バーマン・シャーリー・ジョイ 他. FD実践報告 学生と一緒に考える アクティブ・ラーニング英語授業. *弘前大学教養教育開発実践ジャーナル* 2019 ; 3 : 59-65.
- 47) 大谷由紀子, 植田芳昭, 安井幸則, 工藤隆則, 寺本俊太郎, 川野常夫. 学生参加型FDワークショップによる授業アンケートの改善提案. *工学教育研究講演会講演論文集 第68回年次大会 (2020年度)* 2020 : 234-235.
- 48) 橋本あや, 川村和弘. 山口県立大学における学生スタッフ制度と組織課題解決 (PBL) 学生プロジェクトの軌跡. *山口県立大学学術情報* 2020 ; 13 : 75-83.
- 49) 吉川幸. 「岡山大学SDGsアンバサダー」による学生発案型授業の 実践から見る課題と展望. *岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要* 2021 ; 6 : 87-100.
- 50) 磯部耕志郎, 石原諭衣, 竹田匠 他. 生が変わる日本大学 (第6章)「令和元年度 日本大学 学生 FD CHAmmit」における取り組み. *日本大学FD研究* 2022 ; 9 : 79-98.
- 51) 竹田匠, 吉田未来, 大貫陽司 他. 生が変わる日本大学 (第7章)「令和2年度 日本大学 学生 FD CHAmmit」における取り組み. *日本大学FD研究* 2022 ; 9 : 99-117.
- 52) 中里祐紀. 学生参画型FDの有効性と継続性—岡山大学を事例として—. *大学教育学会誌* 2022 ; 44(1) : 140-149. Doi : https://doi.org/10.60182/jacuejournal.44.1_140
- 53) 竹田蘭丸, 土屋怜王, 古家凌成 他. 生が変わる日本大学 —「令和3年度 日本大学 学生FD CHAmmit」に関する報告書—. *日本大学FD研究* 2022 ; 9 : 119-154.
- 54) 松原聖, 高久保豊, 竹林一志, 武田圭太. 近年の商学部・大学院商学研究科の FD 活動. *日本大学FD研究* 2022 ; 9 : 63-77.
- 55) 土屋怜王, 田中花奈, 中澤駿之介 他. 「生が変わる日本大学」—「令和4年度 日本大学 学生FD CHAmmit」に関する報告書—. *日本大学FD研究* 2023 ; 10 : 43-77.
- 56) 小原朋子. 福岡工業大学 学生 FD FIT-joinの活動報告. *FD Annual Report* 2023 ; 14 : 60-68.
- 57) 相崎大地, 荒木姫菜子, 根岸啓斗 他. 「生が変わる日本大学」—「令和5年度 日本大学 学生FD CHAmmit」に関する報告書—. *日本大学FD研究* 2024 ; 11 : 89-110.
- 58) 荒木姫菜子, 山谷和奏, 望月咲優 他. 「生が変わる日本大学」—「令和6年度 日本大学 学生FD CHAmmit」に関する報告書—. *日本大学FD研究* 2025 ; 12 : 15-54.
- 59) 木野茂. 学生主体の教育改善活動「学生 FD」. *立命館高等教育研究* 2016 ; 16 : 197-213.
- 60) 吾郷美奈恵, 藤田小矢香, 長島玲子, 金山時恵. 公立大学看護学生の学生FD活動と大学への愛着形成. *日本医学看護学教育学会誌* 2017 ; 26(2) : 8-13.